

平成24年度農林漁業振興会長賞受賞理由概要
農産部門

地域と協働して成し遂げた中山間地域における6次産業化経営モデル

- 氏名又は名称 有限会社 やさか共同農場（代表 佐藤 隆）
- 所在地 島根県浜田市
- 出品財 経営（大麦、大豆他）
- 受賞理由

・地域の概要

浜田市弥栄町は、島根県西部の中国山地に位置（標高400m前後）し、森林面積が全体の85%を占める山間部、農地面積は379haで、水稲作中心の地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（有）やさか共同農場（以下「農場」という）は、公害や食の安全などが社会問題化していた昭和47年、佐藤代表取締役を含む当時20歳前後の4人が、弥栄村三里（当時）に入村し、「生活と生産の場が一つになった共同体建設」実現のため設立した「弥栄之郷共同体」が前身である。入村当時、わずかな農地を使った米、野菜等生産であったため、冬季の出稼ぎは避けられない状況にあった。「何のため就農だったのか」という思いから、理想と現実との乖離を埋めるために取り組んだのが、地域で生産される農産物、高齢者の知恵・技術、水等の地域資源を活用した味噌加工である。平成元年、共同体の事業拡大に伴い法人化し、現在では、味噌等の農産物販売の全国展開を図り、平成23年は構成員37人、売上げは約2億5千万円となるまでに成長している。

・受賞者の特色

（1）味噌加工の取組を通じた地域活性化

- ① 6次産業として取り組む味噌加工の拡大に伴い、大豆等の原料は、自ら生産するもののほか、地域農家との契約栽培で調達している。調達にあたっては、集落の事情に応じて農場も作業に協力して取り組むなど、現在では、地域5つの集落営農組織を巻き込み、地域農業の活性化に繋がる取組として拡大している。
- ② 農産物の販路が全国規模になるのに伴い、宅配会社との共同出資により、アンテナショップと宅配事業を統合した販売会社を設立し、農場だけでなく、地域農家のための販路も確保するなど、地域との連携を構築しつつ、地域農業全体を見据えた販売に取り組んでいる。

（2）有機農業への挑戦

入村当時、世の中で顕在化していた食の安全性の問題への回答を探して有機農業の取組を開始した。以来約40年にわたり、夏季冷涼等の地域特性を活かしつつ、書籍を通じて習得した技術により水稲や大豆等の有機農業の取組を実践している。

（3）農場が取り組む地域の魅力づくり

農業体験やオーナー制度の実施による農村と都市との交流に取り組むほか、地域の若者が取り組む地域づくりに対して支援を行うなど、「共同農場の発展は、弥栄町の魅力の上にある」との信念のもと、地域の魅力づくりに尽力している。

・普及性と今後の発展方向

6次産業という言葉も無い時代、山間にある限界集落において、地域の人的・物的資源を活用して味噌加工という一つの産業を興したこの取組は、地域農業の維持・発展、雇用の創出等、地域全体の活性化に繋がった。また、今後は他の市町村にも農場を展開する予定としており、このことで、さらなる新規就農者の定着数の増加に繋がることが期待されるなど、6次産業化を通じた山間地域における農業経営の成功事例は、様々な方面で限界集落の再興に大きく貢献している。

しかしながら、これはあくまでも通過点として、今後とも、味噌加工業者としてではなく農業者として、農業生産を継続するための加工、豊作貧乏を出さないための加工、地域農業の発展のための加工、を念頭に組み込んで行くこととしている。